

牛久：学校周辺に見る自然

第19号 向台小

2020年5月15日発行

< キャベツに来る虫たち >

こんにちは。畑にキャベツやアブラナを植えた学校では、モンシロチョウが卵を産み、幼虫がすくすくと育っていることと思います。5/12(火)、向台小のキャベツ畑をのぞくと、虫食い穴だらけのキャベツの葉に、いろいろな虫たちを見つけました。もちろん、モンシロチョウの幼虫もいましたよ。



虫食いの穴だらけのキャベツ(左)と、葉のうらについていたモンシロチョウのたまご(右2枚)。

高さ1ミリほどの小さな卵が、キャベツの葉の裏についていました。産みたては白っぽい色をしていますが、ふ化が近づくにつれ、オレンジ色に近くなっていきます。



モンシロチョウ2齢幼虫(左：ふ化後、1回皮をぬいだ幼虫)と、3齢(中)、4・5齢幼虫(右)。

幼虫もいました。1センチくらいの小さなものから、3センチをこえる大きなものまで。どのようにして、こんなに大きくなっていくのでしょうか？



少し黒ずんだ緑色の、ころころしたうんちがたくさんありました。いつごろから、こんなにっばなうんちが出るようになるのでしょうか？学校が始まったら、かんさつしましょう。一つだけ、さなぎも見つかりました。じっとして、動きません。死んでしまったのでしょうか？いいえ、じつはこの中ではびっくりするようなことが起こっているのです。その話は、いずれまたの機会に。

モンシロチョウが出したたくさんの大きなフン(左)と、さなぎ(右)。





タマナギンウワバというガの幼虫。となりの小さいのも、右のもっと小さいのも同じ虫。

さて、ここで問題です。向台小ホームページの向台っ子ちゃんねる「キャベツとアオムシ」では、①長さ3センチをこえる大きな幼虫、②長さ12ミリくらいの少し小さめの幼虫、③長さ5ミリくらいの小さな幼虫を見つけましたが、この中でモンシロチョウの幼虫でないのはどれでしょう？ 色やもようのほか、動きにも目を向けると分かりますが、じつは、その幼虫とは上の写真のタマナギンウワバ(玉菜銀上翅)というガのなかまです。



コナガのさなぎ(左)と、ヨトウガのたまご(右：幼虫はモンシロチョウです)。

こんなガも、いました。さなぎはコナガ(小菜蛾)。たまごはヨトウガ(夜盗蛾)のものです。



これもガのたまご？ と思って、よく見たらナガメ(菜亀)というカメムシのたまごでした。ナガメは、キャベツやアブラナなどのしるを吸って、弱らせてしまう、キャベツなどにとっては困った虫です。

これもキャベツの害虫、ナガメのたまご。

たまごといえば、こんなたまごもありました。黄色い小さなたまご。でも、モンシロチョウじゃありませんよ。たくさんかたまつて、ついていますね。これは、テントウムシのたまごです。そして、テントウムシがいるところには、エサとなるアブラムシがいることが多いです。いました。キャベツの害虫、モモアカアブラムシです。そのほか、やってくる虫を食べる、クモも2しゅるいいました。



3年生になって、はじめて始まる「理科」。これからのかんさつが楽しみですね。

【理科支援員
：宮内】

テントウムシのたまご(左)と、モモアカアブラムシ(中左)、ガの幼虫をねらうクモ(中右)、まちぶせする別のクモ(右)。